

# 社会資本整備における ストック効果の向上について

---

平成29年3月6日  
国土交通省

# ストック効果最大化に向けた提言のポイント

## 基本的な考え方

これからの社会資本整備においては、ストック効果「最大化」戦略を確立。

- ① 「効果が出る」から「効果を出す」へと発想を転換
- ② 「賢く投資・賢く使う」の徹底 ⇒ ストック効果の「見える化」さらに「見せる化」へ ⇒ 「フィードバック」というサイクルの確立

## 具体的施策

### 「賢く投資・賢く使う」の徹底

#### (1)「賢く投資」(投資面の工夫)

- ・民間投資の誘発
  - 企業の事業活動に合わせた事業実施スケジュールの調整 等
- ・複数事業の一体的実施
  - 複数施設の配置計画の工夫 等
- ・ハード・ソフトの総動員
  - 道路整備に伴う事業地周辺における規制緩和 等
- ・小さな投資で大きな効果
  - 既存施設の機能を高める追加投資 等
- ・新技術の活用
  - ICTを活用した先進的モニタリングシステムの利用 等

#### (2)「賢く使う」(施設運用面の工夫)

- ・施設の利用効率の向上
    - 需要状況に応じた継続的な運用の見直し
    - 施設の運用によって得られるデータの活用 等
  - ・施設の高度化、多機能化の推進
    - PPP/PFIの手法による施設の高付加価値化
    - 未利用資源の活用 等
  - ・ビッグデータの活用
    - ビッグデータによる施設利用の状況の可視化・分析 等
- #### (3)「賢く投資・賢く使う」の条件整備
- ・事業計画、完成見通し等の情報開示
    - 計画のビジュアル化など分かりやすく、かつタイムリーな情報発信 等
  - ・地域における協力・連携体制構築
  - ・行政手続の円滑化の推進

### 事業の効果的实施

### ストック効果の「見える化・見せる化」

#### (1)幅広い効果の把握

- ・事後評価等の充実
  - 効果を高めた「工夫」の実績や、さらに高める対応策等のレッスンの把握
  - 事後評価等での、発現した多様なストック効果の客観的・定量的な把握
- ・ビッグデータ、アンケート等の幅広い情報の活用
  - 行政機関や民間事業者が保有する情報、ビッグデータの積極的な活用
  - データの所在、活用方法等の整理

#### (2)誰にでも分かりやすい伝え方へ

- ・情報の分かりやすい形での提供
  - 事例集の作成やアーカイブ化により、分かりやすく解説・紹介
- ・相手に応じた伝え方の工夫

#### (3)経済分析手法の活用に向けた検討

- ・帰着ベースの分析手法等による効果の「見える化」
    - SCGE分析※の試験的实施
- ※空間的応用一般均衡 (Spatial Computable General Equilibrium) 分析。  
受益者側の視点で便益を評価する一手法。

### 事業へのフィードバック

#### ストック効果の高い事業への重点化に向けたマネジメントサイクルの確立

##### ○「見える化」で得た知見(工夫・効果・レッスン)の活用

- ストック効果の計測に必要なデータ類の整理
- 工夫・効果・レッスンの蓄積、インデックスを付したアーカイブやマニュアルの作成、横展開

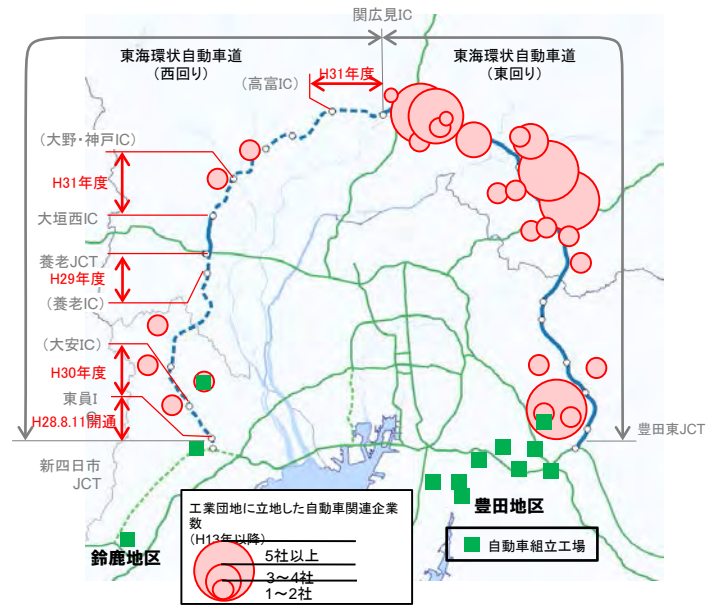
##### ○人材の育成

- 「効果が出る」から「効果を出す」へ職員の意識転換

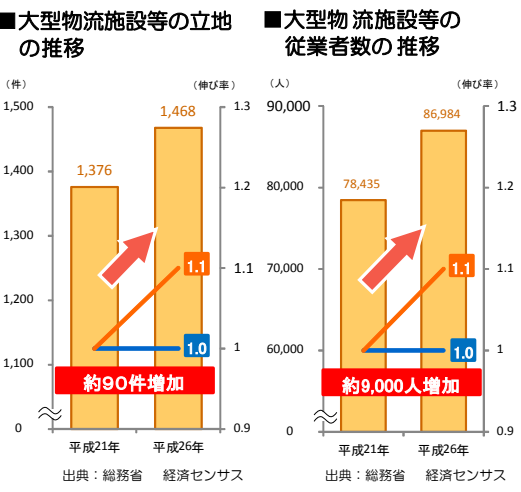
# 「賢く投資・賢く使う」の徹底 ~民間投資の誘発~

○事業の完成見通しの積極的な開示、地域における連携体制の構築等により、計画的な民間投資を誘発

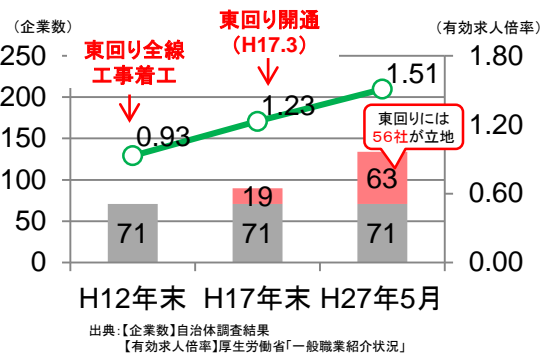
例：東海環状自動車道



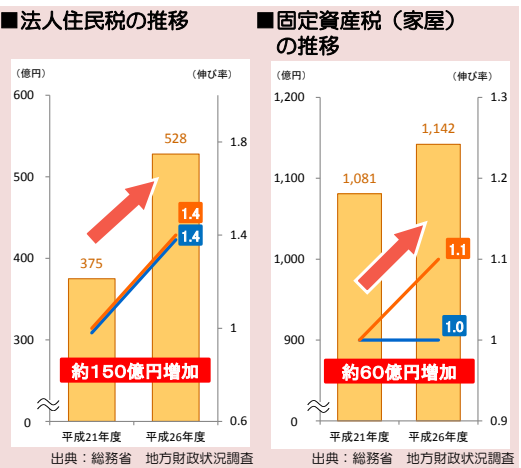
例：圏央道



○東海環状沿線工業団地に自動車企業が**63社立地**。そのうち、東回りは**56社が立地**し自動車産業が集積。  
○岐阜県の有効求人倍率が**1.51(全国3位)**に上昇。



○沿線自治体の大型物流施設等は、**5年間で約90件増加**、従業者数は、**約9,000人増加**  
○法人住民税が**約150億円増加**  
○固定資産税(家屋)が**約60億円増加**

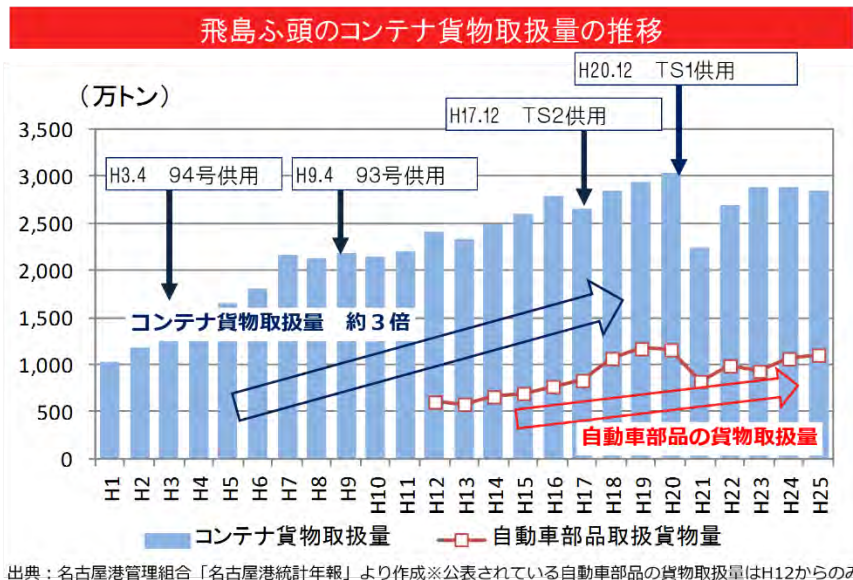
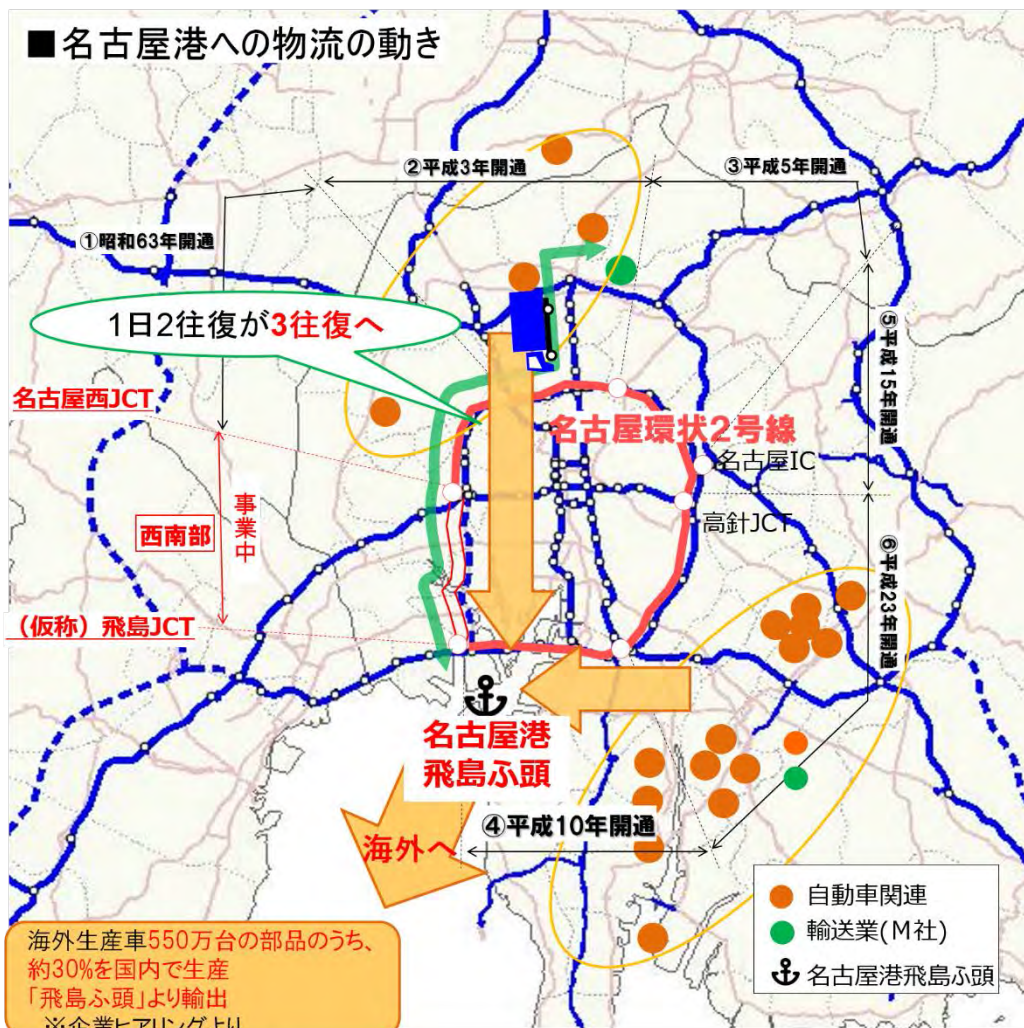


沿線自治体全体  
沿線自治体全体の伸び率(対H21比)  
関東(1都4県)全体の伸び率(対H21比)



○複数事業間の連携を行い、一体的な実施を図ることにより、効果をさらに向上

- 名古屋港飛島ふ頭のコンテナターミナル整備により、海外向け自動車部品等のコンテナ貨物取扱量が約20年で約3倍に増加
- 名古屋環状2号線の整備により、小牧市と飛島ふ頭間の物流が効率化（企業ヒアリンクによれば、トラック回転数が以前の1日2往復から1日3往復に増加）



### 民間活力との連携

民間活力と連携し最先端機材を導入・物流効率の更なる向上を図る





# (参考) 国道15号・品川駅西口駅前広場の整備方針

## ポテンシャル

- 羽田空港との高いアクセス性
- リニア中央新幹線の整備
- MICE・宿泊施設等の機能集積
- 再開発による新たなまちづくりの進展



出典:JR東海ホームページ



出典:国土地理院ホームページ 電子国土web地理院地図(2007年~)

## 課題

- 駅・街の低い連絡性
- 鉄道・バス等の乗り場の分散
- 駅前広場や歩行者の空間不足
- 国道15号の交通の輻輳



## 広域交通機能・国際交流機能の強化

## 道路上空を活用し、日本の顔となる『世界の人々が集い交わる 未来型の駅前空間』を創造

これまでの分断された空間



道・駅・街が一体の空間へ



立体道路制度を活用

### ■ 道路上空を活用した整備方針のイメージ図



※上記は、道路上空を活用したイメージ図であり、具体的な整備の方向性については、今後、関係者との検討を踏まえ、決定していきます。

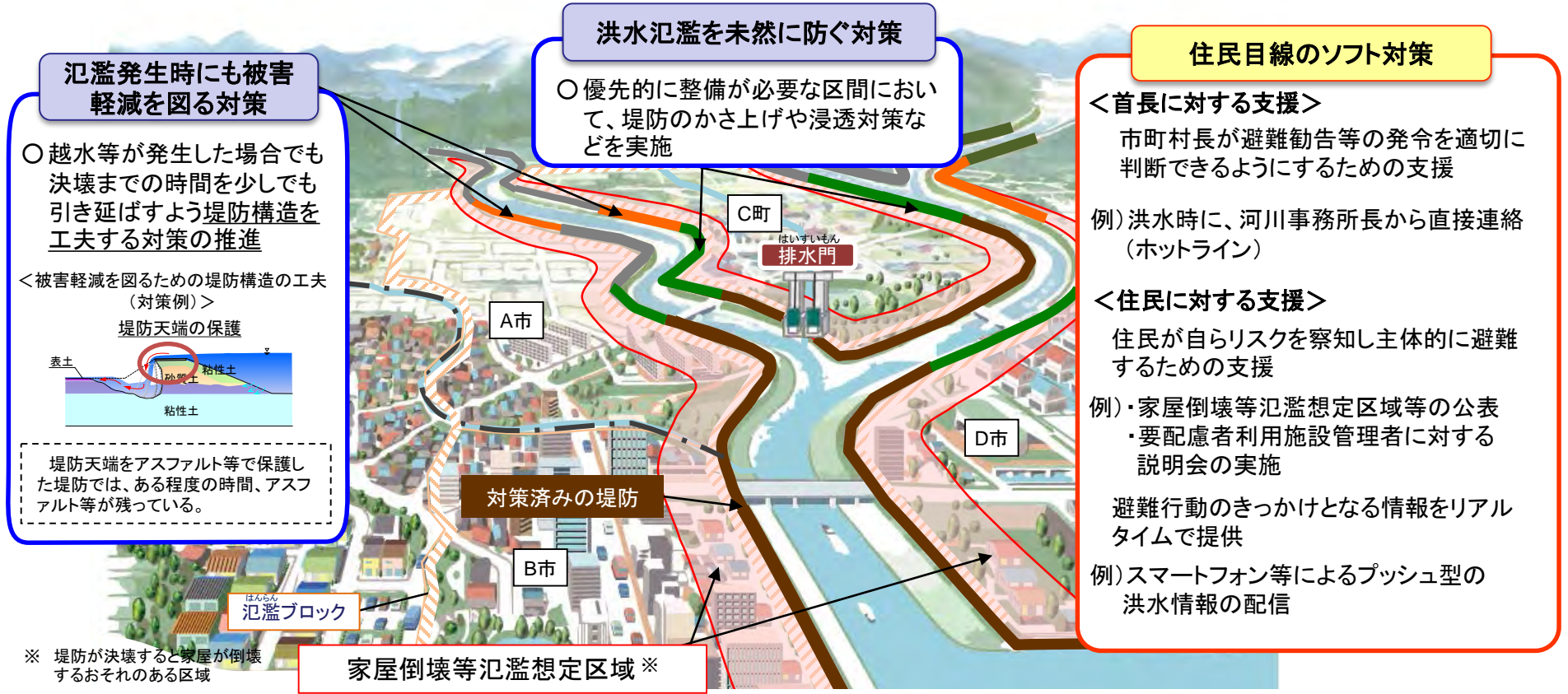
- ① 直結通路、アトリウム広場  
⇒ 歩行者と車の空間を分離  
⇒ 駅と街の回遊性を向上
- ② 交通ターミナル  
⇒ バス、タクシー乗り場を集約  
⇒ 国内外旅行者に観光情報の発信
- ③ 民間商業施設  
⇒ にぎわい空間を創出

民間からの提案を踏まえた  
官民連携事業で実現

○行政・住民・企業の全ての主体が災害リスクに関する知識と心構えを社会全体で共有し、備える「防災意識社会」へ転換するため、整備効果の高いハード対策と住民目線のソフト対策を総動員

例：水害に対する取組

- H27年9月の関東・東北豪雨を踏まえ、**国管理河川において、平成32年度目途に以下の取組を推進**(水防災意識社会再構築ビジョン)。
- H28年8月の一連の台風による被害(岩手県では要配慮者利用施設で9名の犠牲者)を踏まえ、**都道府県管理河川にも拡大**。
- 地方公共団体や河川管理者、水防管理者等の関係者の連携体制構築のため、**大規模氾濫減災協議会制度を創設**。(水防法等の一部を改正する法律案(平成29年2月10日閣議決定))



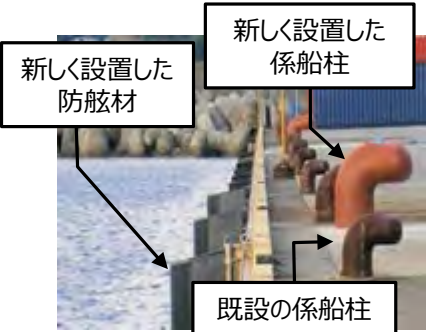


「賢く投資・賢く使う」の徹底 ～小さな投資で大きな効果、施設の高度化、多機能化～

○既存施設を有効に活用する賢い投資や官民連携により、新たな需要を取り込み、地域の活性化に貢献

例：既存施設の活用によるクルーズ船受入れ

○ 貨物用ターミナル等において、**係船柱等の増設により、クルーズ船を受入れ。**

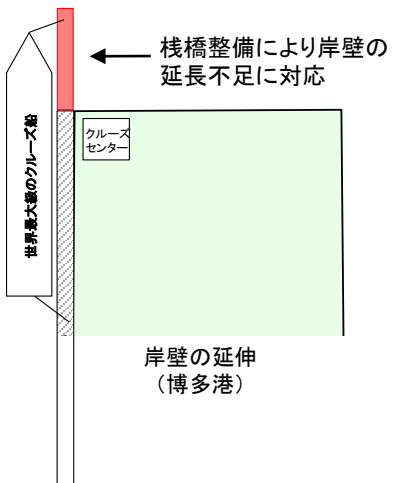


新しく設置した防舷材  
新しく設置した係船柱  
既設の係船柱

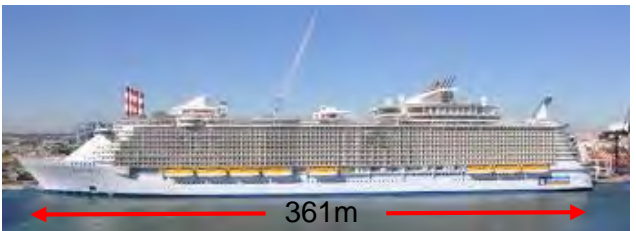
平成29年に16万トン級（アジア最大：最大定員4905人）のクルーズ船が寄港する港湾数を、平成27年比で倍増（平成27年は7港に寄港）

〔平成28年度末までの実施予定〕  
八代港のほか、清水港、長崎港等

防舷材・係船柱の増設（油津港）



世界最大のクルーズ船 オアシス・オブ・ザ・シーズ（約22万トン：最大定員6360人）の我が国港湾への寄港に対応



オアシス・オブ・ザ・シーズ  
総トン数：225,282トン 満載喫水：9.3m

例：官民連携による国際クルーズ拠点の形成

○岸壁の優先使用を希望する**民間の投資意欲**を活用し、クルーズ船の受入環境として必要な**旅客ターミナルビル等の整備を推進**

【官民の連携による拠点形成のイメージ】

岸壁（公共）  
港湾管理者は優先的な使用を許可  
旅客ターミナルビル（民間）  
クルーズ船社が整備し他社にも供用  
官民連携による受入拠点形成

【岸壁の優先的な使用のイメージ】

- 投資した船社（A社）による予約（使用の1年～1年半前まで）

月	火	水	木	金	土	日
	A社		A社		A社	

↓

- その後、A社以外の船社も予約可能（使用の1年～1年3か月前以降）

月	火	水	木	金	土	日
B社	A社	C社	A社		A社	

※投資を行う事業者に、岸壁の優先使用などを認める新しい仕組みを創設するため、港湾法の一部を改正する法律案を今国会に提出予定。

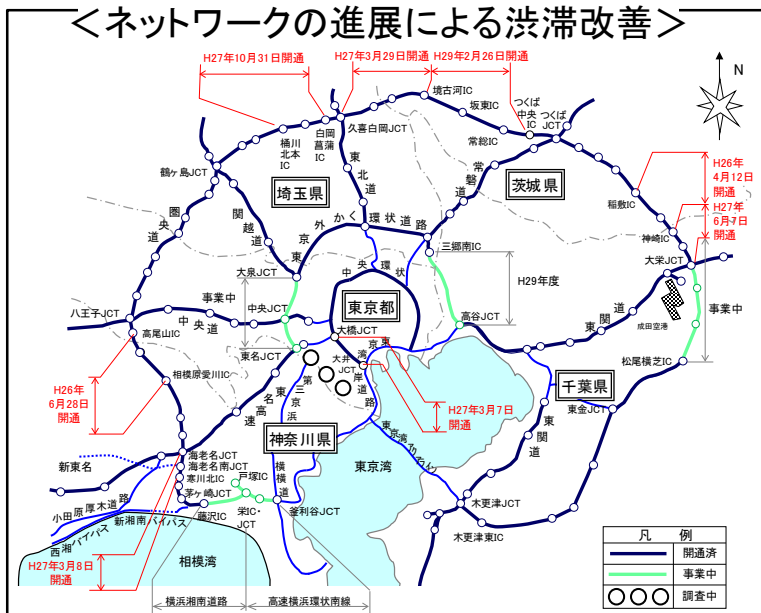
# 「賢く投資・賢く使う」の徹底 ~施設の利用効率の向上~

○需要状況に応じた運用面の工夫を実施することにより、既存施設の機能を最大限発揮

例：首都圏の高速道路における利用重視の新しい料金体系の導入

- 首都圏三環状の概成により、交通が分散し、渋滞が大幅に改善するなど、環状道路の効果が顕在化。
- 首都圏の高速道路について、平成28年4月より、圏央道や外環をより賢く使う利用重視の新しい料金体系を導入。
- 今後、渋滞状況等を踏まえて、料金を段階的に見直し、渋滞緩和による生産性向上を促進。

## ＜ネットワークの進展による渋滞改善＞

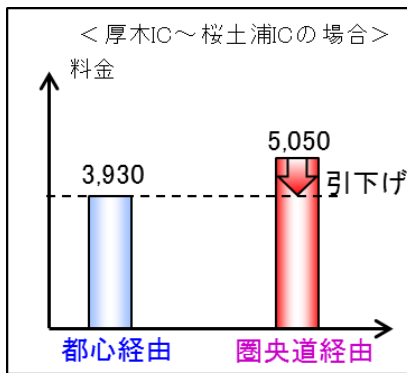


### 【効果例】

- 首都高品川線開通  
中央環状の全線開通により、都心の交通量が5%減少、渋滞が5割減少。

## ＜新たな料金による生産性向上＞

圏央道の利用が料金の面において不利にならないよう、経路によらず、起終点間の最短距離を基本に料金を決定(平成28年4月より導入)



平成28年4月からの新たな料金の影響を検証した上で、混雑状況に応じて変動する機動的な料金を導入



例：羽田空港の飛行経路見直しによる発着枠の拡大

- 2020年までに国際便約80便を130便／日に拡大。約6500億円／年の経済波及効果を創出。



## ○事業主体と地域の間や地域内の多様な関係者間、関係行政部局間で総合的・継続的な協力・連携体制を構築

- 石川県では、北陸新幹線の開業効果を最大限に引き出し、県内全域へ波及させるため、**官民が連携して取り組むアクションプラン**を策定するとともに、**商工会議所、観光連盟等とともに推進会議を設置**し、県を挙げた取組を実施。
- これらの取り組みもあり、金沢に来る観光客が**約3倍に増大**するなど、地域経済に大きな効果。

### 石川県のアクションプラン(STEP※21)に定められた重点プロジェクトの概要

※: Shinkansen Two-way Exchange Plan

#### ■おもてなしの向上

観光客の満足度を高め、リピーターの確保、石川ファンへの拡大、口コミによる誘客の促進を図るためには、観光事業者のみならず、県民挙げて「おもてなし」の向上に取り組むことが大切である

- ① 県民のホスピタリティ意識の向上
  - ・観光客への声かけ運動の推進
  - ・市民マナーの向上
  - ・ふるさと教育の推進
  - ・住民参加イベントの開催



- ② 観光案内と地域情報の充実
  - ・観光ボランティアガイドの人財育成や、ガイド力の向上
  - ・地域の旬情報の提供
  - ・地域限定マップの作成



観光ボランティアによるガイド(金沢)

- ③ 観光客に優しい観光地づくり
  - ・観光地のバリアフリー、アメニティ施設の充実
  - ・観光従業者の育成
  - ・公共交通機関のサービスや乗り継ぎ利便性の向上

#### ■食文化の魅力向上

全国から高い評価を受けている県産食材や食文化の魅力をもっと高めるためには、県産食材のブランド化を推進するとともに、石川ならではの本物の「食」の魅力を首都圏などに発信する取組が必要である。

- ① 県産食材の魅力向上と普及促進
  - ・県内料理店等での活用促進
  - ・生産地の魅力発信
  - ・ブランドづくり
  - ・食材の品質管理と信頼性確保



白山百穂

- ② 石川ならではの食文化の魅力発信
  - ・伝承料理の商品化
  - ・食どころ石川の発信
  - ・調理技術の向上
  - ・地域ならではの農林水産物を活用した食品の開発



ルビーロマン

- ③ 食文化の魅力を高める食空間の提案
  - ・工芸品・花木・茶道等の活用促進
  - ・祭りや芸能、地域文化等との連携

### 石川の 魅力向上

#### ■歴史・景観を活かした地域づくり

地域の優れた自然景観や歴史文化資源を活用して地域の活性化を図るためには、官民が連携・協働して、貴重な資源に磨きをかけるとともに、新たな資源の発掘・魅力を創出する取組が必要である。

- ① 観光地の環境保全
  - ・観光地の美化清掃、環境緑化
  - ・ゴミの持ち帰り運動
  - ・里山里海の保全再生
  - ・自然公園の環境保全

- ② 歴史・自然景観の魅力向上
  - ・町家再生や無電柱化による景観保全
  - ・歴史都市整備
  - ・棚田などの美しい景観の保全
  - ・道の駅の機能強化

- ③ 地域の賑わいづくり
  - ・観光施設等と連携した周遊ルートやイベントの創出
  - ・滞在型ツーリズム、アグリビジネスの起業化



小松市村木町の民家



農家民宿での都市住民との交流

### 主な効果(H27.6時点)

#### 北陸新幹線の乗車実績

- ・開業後1か月 約78.2万人(前年比 約2.9倍)
- ・ゴールデンウィーク(4/24～5/6) 約39.1万人(前年比 約3.1倍)

※JR西日本調べ(上越妙高～糸魚川間、前年の在来線特急との比較)

#### 主な観光施設等への入込状況

##### <開業後1か月>

- ・金沢城公園 約38.7万人(過去10年平均比 約2.5倍)
- ・兼六園 約55.6万人(過去10年平均比 約1.9倍)

##### <ゴールデンウィーク>

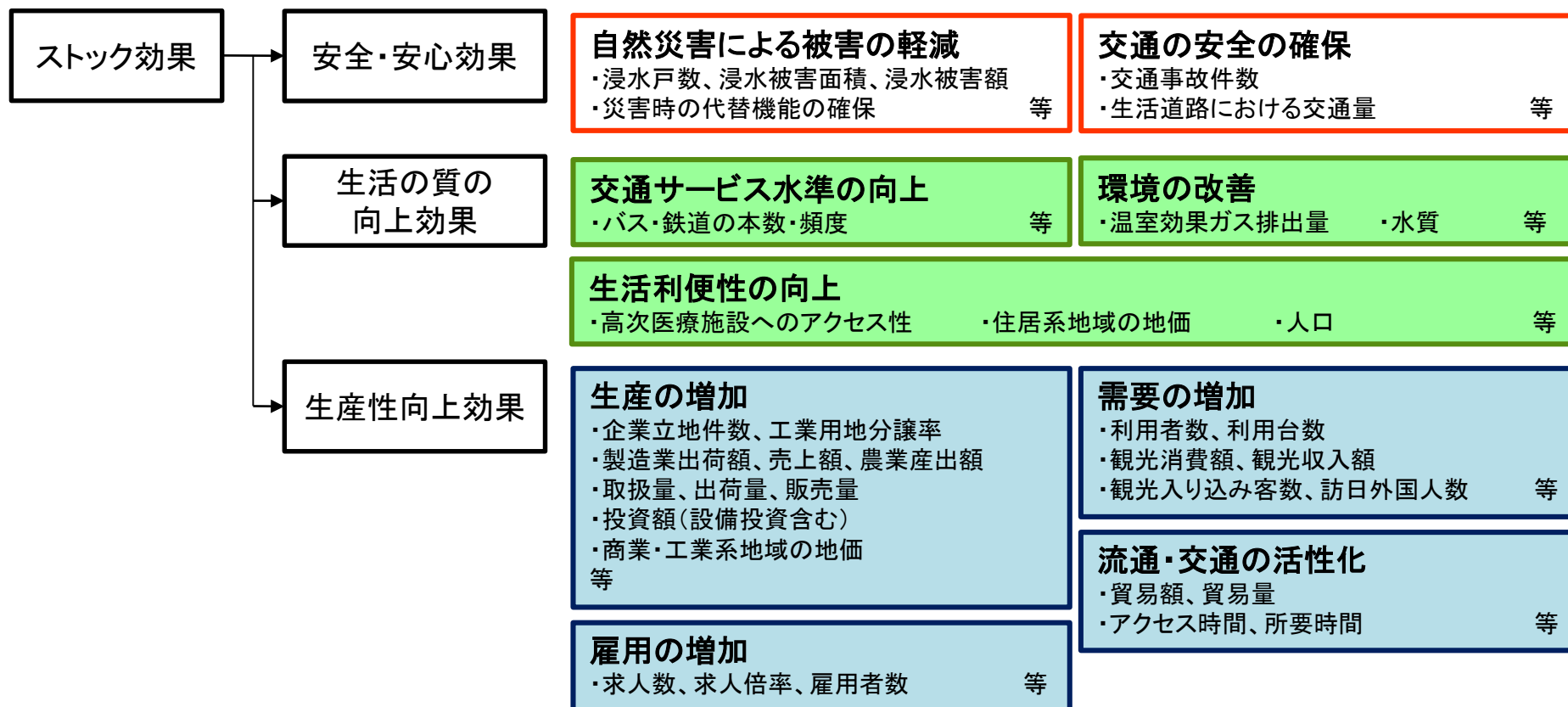
- ・金沢城公園(4/29～5/6) 約16万人(前年比 約3倍)
- ・兼六園(4/29～5/6) 約12万人(前年比 約2倍)
- ・輪島朝市(4/29～5/6) 約5.6万人(前年比 約1.4倍)

#### 宿泊施設・温泉地の状況

##### <ゴールデンウィーク>

- ・金沢市内の主要ホテル(4/29～5/6) 約1.8万人(前年比 約1.2倍)
- ・加賀四温泉(4/29～5/6) 約5.1万人(前年比 約1.2倍)

○ 現時点での蓄積を踏まえると、発現した多様なストック効果は大きく以下のように類型化でき、こうした効果の把握を幅広く行っていく必要がある。また、その際、これ以外の効果の発生状況についても留意する必要がある。



※ 効果発現の主な経路と考えられるものに沿って分類している。また、各項目の因果関係は捨象している。